

ボランティアについて

渡辺伊佐男

わたし すうねん おおみや くるま かいじょ かぜ さんか
私は20数年、大宮の車いす介助のボランティアグループ「そよ風」に参加していた。
「そよ風」という名はソツと舞い降りて来てソツと去ってゆく。そんなイメージから命名されたという。

ある団体の考えによると、ボランティアは「してあげる」ものではなく「させていただく」ものだという。仕事以外で凡人が社会に出来ること、それは簡単なボランティアと僅かな寄付かと思う。

その一つ、ボランティアについては日本人は米国人等よりも意識が低かった。特に高齢者にとっては不思議な存在であった。「なーんだ、足代も出ないのか」などとバカにされたことが何度かある。無理もない、戦中、戦後と食べるのが精一杯で生きてきたからだろう。それが、東日本大震災の直後垣間見た人助けに粉骨破身する多くのボランティアに関心を持つ人々が増えたのは事実だったが、前述の訓によるとどんな善き行いも「誰にも言わず、しかも自分自身、自己満足しないこと」が理想であるという。

そんな思いがあれば「今日はわざわざ雨の中を来たのに生徒がつかない」「今まで来ていた生徒が来なくなった」などと嘆くことはない。寄付しても凡夫は「東日本の際には2万円寄付したよ」などと吹聴したくなる。確かに口に出さなければ他人は知りえない。寄付という善行も他人に自慢することにより、価値が下がってしまうと彼らは言う。

無論、この思想を強要するつもりはない。

各人、それぞれの意思に従い、ボランティアをしてくだされば、しない人よりずっと立派だと思う。日本語のボランティアをなさっている方々は中国語ができる等何かを持っている方が多い。私などは一応、日本語を教える立場にいらして頂いているが、言わば濫芋充数であり本来諸先生方と同席できない身である。だが今後正しい日本語を深耕することで一人前の教師になり「そよ風」のようにソツと来てソツと帰える。そんな活動をしてみたい。



7・8月の教室予定

月	川口パートナーステーション（火曜日）					栄町公民館（金曜日）				
7月	7日	14日	21日	28日	—	3日	10日	17日	24日	31日
8月	4日	11日	18日	25日	—	7日	14日	21日	28日	—

スタッフ会議（7月24・28日）

この日の学習は8時までになります。
8時からスタッフ会議になります。
スタッフは必ず出席しましょう。出席できない時は、必ず代表か副代表に欠席することを伝えてください。
関わっている教室それぞれに出席しましょう。

議題

生徒・スタッフ関係
夏の交流会
30周年について

事務局コーナー

事務局会議（30周年実行委員会）

7月8日（水）（第2水曜日）

川口市民パートナーステーション（19時より）

署名活動 7月12日 大宮駅



夜間中議連：「川口自主」初視察 馳会長、公立設置に意欲 / 埼玉

毎日新聞 2015年06月11日 地方版

公立の夜間中学の設置推進などを目的に活動している超党派の「夜間中学等義務教育拡充議員連盟」（馳浩会長）の国会議員13人が9日、川口市の「川口自主夜間中学」（金子和夫代表）を初めて視察した。【鴛沢哲雄】

視察は、30年前に設立された「埼玉に夜間中学を作る会」（野川義秋代表）が、連盟側に働きかけて実現。所属議員は9日夜、JR川口駅東口にある複合施設「キュポ・ラ」の教室で授業を見学後、「公立の夜間中学を設置してほしい」と訴える生徒らの声に耳を傾けた。この日は日本語の授業などが行われ、ある議員は、外国人の生徒に「この教室をどうやって知ったのか」「日本語の教科書で学んでいるのか」と質問。生徒は「インターネットで教室を調べた」「中国にいた時から日本語の教科書で勉強していた」と答えた。

他の議員は、保育士の国家試験に挑戦している中国・ハルビン市出身の権文穎（けんぶんえい）さん（29）が開いていた問題集をのぞき込み「こんなに難しい言葉を勉強しているの」と驚いた様子だった。視察後の議員との意見交換会で、金子代表は、自主夜間中学ではボランティアの先生約20人が40～50人の生徒を指導していると説明。国や自治体には、既存の学校の教室利用▽昼間の中学に通えない不登校の生徒が自主夜間中学に通った場合に、（昼間の中学で）出席日数を加算できるルールづくり▽教材の無償配布などを求めた。馳会長は「教育を受けられる機会を広げ、学ぶ権利をどう保障するか真剣に考えたい」と述べ、公立夜間中学設置に向け全力で取り組むことを約束した。